

朝顔夕顔

朝は朝顔の花のように
あかるく輝いていた
夕べは夕顔の花のように
ほんのり匂うていたい



坂村真民

いつまで続くか分からないこの状況の中、むやみに怯えず、落ち込まず、かといって調子に乗らず、自分自身に与えられた役目を果たしてゆきましょう。苦しい状況ではあるけれど、朝は輝いていた、夕方にはほんのりといよ香りを与えられるようなそんな人でありたいものです。「世界中の人々が幸福でありますように」と祈りを捧げられる人でありたいものです。(『書』は富士宮市亀田恵賜さんの作品、実物は1.2m x 1.8mの大作です)

朝顔 夕顔
朝は朝顔の花のように
あかるく輝いていた
夕べは夕顔の花のように
ほんのり匂うていたい

坂村真民の詩
志場

興徳寺便り

第129号
(復刊第54号)
令和2秋彼岸

今回は仏教詩人・坂村真民さん(明治42年〜平成18年・97歳で逝去)の詩、「朝顔夕顔」をとりあげてみました。新型コロナウイルスの感染拡大にともない私たちの生活も今まで経験したことのない規制の中にあります。このような夏を過ごすことになろうとは、少なくとも年の初めには誰一人予想できませんでした。そしてこれからどのように収束してゆくのかも分からない、そんな不安の中で今年も朝顔は咲き、夕顔はほのかな香りを楽しませてくれました。

汝須らく一身の安堵を思はば、先ず四表の静謐を祈るべきか。日蓮聖人『立正安国論』の一節です。―自分自身の幸せを願う者はまず「四表の静謐」すなわち国中の幸せをまず第一に祈るべきである―鎌倉時代、日本は疫病や飢饉、天変地異が相次ぎ人々は苦しみの底に沈んでいました。その中に在って、日蓮聖人は社会が安穩であってこそ一人一人の真の幸福もあると説かれたのです。

お彼岸のお経廻りの予定

- 9月1日 稲子～芝川・大久保
- 2日 精進川～下条 3日 下条、青木
- 4日 青木・馬見塚
- 5日 万野原新田・大岩・舟久保町・村山・小泉・源道寺
- 6日(日)富士市
- 7日 外神・穂波町・淀師・中島町 淀川町・大中里・貴船町・泉町
- 8日 北山・上井出・山宮・宮原・富士見ヶ丘・野中・星山・柚野
- 9日 宮町・西町・大宮・宝町・豊町～柚野 10日 三島～富士～柚野
- 11日 清水・静岡・柚野・希望者
- 12日～柚野 13日(日) 富士、由比、内房、大久保、柚野 他希望者

*日付が変わることがあります。
泰然か泰潤のどちらかが伺います。
変更等希望する方、ご連絡ください。



なことが含まれていることに気づかなければなりません。「中止します」という選択に誰も反対はしない。でもお坊さんはそのことによって《楽》をしてはいけない、と私は思います。*今回の棚経を中止したお寺もたくさんあったようですが、私は「来て欲しくない方は連絡してください。中に入って欲しくない方は玄関先でお経をあげます。」と連絡したところ、約200軒のお檀家さんのうち4軒の方から、連絡もしくは玄関に張り紙がありました。その意思表示

タイゼン・ケイタイ ; 090-2180-859

にやったきりで、泰潤をコーチに特訓?して本番に臨みました。法要自体が1時間、飾り付け等も大掛かりなもので、せっかくこれだけ頑張ったのだからたくさんの方に来て欲しい、けどあまり来られたら困る・・・という複雑な?心境でしたが結果40数名、よかったです。大変だったのは暑さ、すべてを開け放ち、10台の扇風機を回して35℃でした。おまけに私は導師の衣装、頭の燕尾(帽子のようなもの)も暑い、川までの行脚はマスクで大声で太鼓を叩く、すべてが終わったときはフラフラでした。翌日、祭壇の供養の食物はすべてミキサーで粉碎し、卒塔婆と飾り物はお炊き上げして灰にし、一緒に川に流してやっと思つた。『川施餓鬼』は私にとって1年で一番大変な行事ですが、今回の『施餓鬼会』もそれに勝る大変さでした。*今後の行事につきましてもその時々状況を踏まえながら判断してゆきます。*今回のイラスト、泰然でした。【泰然記】

住職のひとりごと

*新型コロナウイルスが私達の生活に有形・無形の影響をおよぼし、これがどのように収束するのか全く見えません。目に見えない敵と闘うのではなく、感染しないよう、感染させないよう、うまく付き合っていくしかないのだと思います。どんなに注意しても、感染もあり得る。その時も誰かを責めるのではなく、受け止めて行く覚悟が大切だ、と思うのです。*4月・5月・6月と毎日境

内と山の整備をして過ごしました。とても楽しい時間でした。どうやら私は頭脳労働より肉体労働が向いている、と再確認した次第。その後の長雨・・・自分の記憶の中の最長・最大の梅雨であったような気がします。そしてそれからの猛暑、朝5時半、本堂でお勤めを始めるともう30℃です。まさに「苦行」の連続です。*コロナによる自粛は私たちの価値観をも変えつつある。不要不急の外出は避ける、と言われるすが何が不要で不急なのか? 不要と思われている行為のなかに実は大切



興徳寺で初めての『施餓鬼会』。餓鬼の世界で苦しんでいるすべての精霊にお経とともに食べ物・飲み物を供養します。



法要は全員マスク着用、座席の間隔も開けて。

伝統の「川施餓鬼」、タイマツは20本余としましたが、例年の如くお題目を唱えながら、芝川まで行脚し川で亡くなられた方の霊やここに纏わる縁・無縁の諸霊魂に回向させていただきました。



施餓鬼会
川施餓鬼、
伝統の灯



川の精霊に焼香



読経の中、河原で焚き上げる

【写真提供】高瀬幹雄

施餓鬼会

暮れまでの予定

9月20日(日) 15:00~写経 16:00 「唱題行」(毎月第4日曜日)

9月22日(火) **彼岸会** 10:00~ 法要. 10:40~法話

恒例の秋のお彼岸の法要です。新型コロナウイルス対策として参詣者にはマスクの着用をお願いいたします。入り口でのアルコール消毒、座席を離す、換気の徹底等できる限りの対策は施します。お経のいっばいあがった卒塔婆をお墓に建てましょう。(当日参詣できない方は、式後本堂から自由にお持ち帰りください。本堂は日中は開いております) お塔婆のお申し込みはお早めに(2千円です)。

10月25日(日) 15:00~写経 16:00 「唱題行」(毎月第4日曜日)

11月8日(日) **お会式** 10:00~ 法要~法話

「お会式」は予定通り執り行います。ただし、具体的な内容は1ヶ月前に決定し、お檀家さんには「案内状」にて連絡いたします。法話は沿津市戸田(へだ)三光寺、石川康玄ご住職、元ジャズドラマーのお坊さんの楽しいお話しに期待しましょう!

11月12日(木)~14日(土) **興徳寺の団参(バス旅行)**

バス旅行も予定通りとします(前回連絡の日付間違っていました)。最終スケジュールは、11月12日 伊勢神宮、13日 伊勢神宮~勝満温泉 14日 那智の滝~帰宅です。費用も「Go to キャンペーン」で約2万円が戻る見込み。よって4万円となりました。まだ若干余裕がありますのでこれを機会に是非お申込みを! なお状況次第で「中止」の可能性もあり。1ヶ月前に判断します。

11月22日(日) 15:00~写経 16:00 「唱題行」(毎月第4日曜日)



興徳寺をきれいにする日

7月19日、朝7時より、興徳寺の大掃除、草を刈ってくださる方、境内を掃いてくれる方、そして本堂内のお掃除と...



約40名が役割を分担して、汗を流してくださいました。前日の雨も上がり、その分大変蒸し暑い日でした。本当にご苦労さまでした。

